



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続において -

令和7年12月19日

我孫子市小中一貫教育だより
第398号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手裏沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

こほく・あらし ふれあいカリキュラム～湖小・5年生「地域の方とみそ玉づくり」

湖北小学校5年生がオリジナルカリキュラムの授業実践で家庭科「みそ玉づくり」を実施しました。家庭科室のホワイトボードには「一杯のみそ汁に思いを込めて、心を通わせるみそ玉作り」と本時のめあてが書かれていました。思いを込めてというのは、日ごろ放課後学習室でお世話になっている地域ボランティアの方々に感謝の思いを込めるという意味で、本時は実際に地域の方をお招きしてにぎやかに開催されていました。

調理台の上には、班ごとに考えたみそ汁の具が並び、校外学習で行ったみりんミュージアムで教わったみそ玉を作る準備が整っていました。

みそ玉づくりは、地域の方と会話をしながら、和やかに進み、笑い声があちらこちらから聞こえてきました。

みそ玉に沸いたお湯をそっと注ぎ込むと、教室いっぱいにみそや鰹節のいい香りが漂いました。「いただきます。」手を合わせた後はみんなで歓談を楽しみながら、温かいみそ汁を頂きました。地域の方との会話は弾み、子どもたちからの質問だけでなく、地域の方からの様々な話題を楽しんでいました。

終わりに、感想を述べました。「みそ汁だけでなく、地域の方と話せて色々知ることができて楽しかった。」「美味しかった。身も心も温まりました。」「お客さんに『おいしい。』と言ってもらえたことがうれしかった。家でも作ってみたい。」子どもたちの感想には、この学習のめあてに向けて取り組んだ達成感に溢れた姿がありました。地域の方からも「皆さんの授業を参観させて頂いて、その成果を味覚芽を通して味わわせて頂きました。本当にありがとうございました。」とお礼の言葉がありました。「地域と共にある学校」を体現化した本時は、子どもたちがより一層地域の方を身近に感じる機会となりました。



つながる 広がる 支え合う～並木小・6年「認知症サポーター養成講座」

並木小 6年生がオリジナルカリキュラムに位置付けた認知症サポーター講座を受講しました。我孫子市社会福祉協議会の方 2名と北地区社会福祉協議会の方 6名の方が、2クラスに分かれて、教室で行いました。

「認知症って何だろう」という冒頭の投げかけから、身近な自分の経験をもとに考えました。その後、用意されたセリフをもとに、役割演技を行いました。何度もご飯を食べていないと主張するおじいさんと、食べ終えたことを説明する姉妹の役です。会話の最後には、おじいさんに強く言うところ、

「どうしたら、やさしい対応ができるだろうか」と考えました。言い分を認めたとうえで別な話題にして、気持ちを他へ向けさせるような方法が紹介され、認知症の方が自尊心をなくさないような周囲の人の対応が大切であることを学びました。学習の最後には、認知症サポーターの任命証を受け取りました。

